

# 令和3年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)

Happy+Natural  
Happy+challenge

(保育目標)

げんきな子 やさし  
い子

A：よくできている

B：わりとできている

C：一部改善が必要

D：改善しなければならぬ

	内容	評価	現状・課題
保育 目標に ついて	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	園内研修等で理念を通して子ども一人ひとりの発信の大切さを確認しており、保育が少しずつ変化が見られるようになった
	(2)子ども一人一人の主体性を大切に保育をしている	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	B	
保育 について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	園見学で見られているという意識もあり、見学で環境の質問を受けても、どうしてこういう環境になったのかということ伝えられる職員も増えてきた。 ディリープログラムは、見直しをし、令和4年度から入園のしおりの変更が必要。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	C	
	(6)1日の流れ(ディリープログラム等)は現行でよい	C	
食育 について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	郷土料理では、初めてのメニューということで、食が進まない子もいるが、給食の職員がランチルームに郷土料理の紹介を写真付きで毎月作ってくれている。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	B	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	
役割 分担 研修 構成	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	毎年、職員の仕事の役割・内容を紙媒体で一人ひとりに配っているが、前年度同様で、職員の受け止め方が一人一人ちがうため、自己評価の見直しをし、そこに気付いてもらうようにしていく。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	

		評価	現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けてい	B	保護者の負担にならないように、行事の日程などを考えるようにし、子ども目線で行事を行うようにしているが、今までと違う形を少しずつ行っているため、どうすれば保護者に理解してもらえるかを職員が臨機応変に対応していけるかが課題である。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	
	(4)園日より、ドキュメンテーション、きつずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	B	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している		
開かれた 保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	A	幼保連携以外にも、こちらから積極的に就学する先の小学校に連絡をとるようにしている
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	A	
子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	C	自粛期間が今年度も多かったため、地域の子育て支援はできなかったが、園見学の場で育児の悩み、園の発信をしている
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	C	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	D	

### 総合的な現状と課題

研修等を通して、園の課題に気付き、その課題に取り組む姿勢がみられるようになったが、まだ現状の仕事にいっぱいいっぱいでもうこれ以上考えられない職員もいるため、仕事の要領や、主体性の保育について、難しく考えすぎず、今日の前にいるこどもの発信をよく聞き、一緒に考えることが大切ということを伝えている。

ここ数年、ディリープログラムの見直しがなかったが、主体性の保育を通して令和4年度から変更予定。全体的に見守る保育ができそうになった時の感染症の増加で後半は年齢別保育になっている。感染症が落ち着いたら基盤は出来つつあるので、来年度はもっと子どもの主体性について話し合い等できるようにしたい。